

日本は過去最多18個のメダル数

北京冬季五輪が閉幕

第24回冬季五輪北京大会が17日間の熱戦を終え、2月20日に閉幕した。日本はスケート、スキー、スノーボードなど幅広い競技で活躍し、これまでの冬季大会で最多となる18個（金3、銀6、銅9）のメダルを獲得した。

スピードスケート女子の高木美帆選手は1000メートルで金メダルに輝いたほか、500、1500メートル、団体追い抜き3種目で銀メダルを獲得した。「君が代を聴けるというのは感慨深く、込み上げてくるものがあった」。

スノーボード男子ハーフパイプの平野歩夢選手は、トリプルコーク1440（縦3回転、横4回転）を見事に成功させて、前回、前々回大会では届かなかった頂点に初めて立った。「ようやく夢がかなったという（金メダルの）重みを感じる」。

フィギュアスケート男子で3連覇を目指した羽生結弦選手が、誰もまだ成功していない4回転ジャンプに挑戦。着地に失敗して4位に終

わったが、「全部出し切ったというのが正直な気持ち。これ以上ないくらい頑張った」と笑顔で話した。

スノーボード女子ビッグエアでは、17歳の村瀬心花選手が銅メダルを獲得し、冬季大会の日本勢では史上最年少メダリストとなった。

障害のある選手が参加する北京パラリンピックは4日から13日まで開かれる。

1 金メダル



高木美帆選手（スピードスケート女子1000m）



小林陵侑選手（スキージャンプ個人ノーマルヒル）



平野歩夢選手（スノーボード男子ハーフパイプ）

2 銀メダル



高木美帆選手（スピードスケート女子1500m）



高木美帆選手（スピードスケート女子500m）



（左から）吉田知那美、吉田夕梨花、藤沢五月、鈴木夕湖、石崎夢実選手（カーリング女子）



小林陵侑選手（スキージャンプ個人ラージヒル）



鍵山優真選手（フィギュアスケート男子）



（左から）佐藤綾乃、高木美帆、高木菜那選手（スピードスケート女子団体追い抜き）

3 銅メダル



富田せな選手（スノーボード女子ハーフパイプ）



村瀬心花選手（スノーボード女子ビッグエア）



森重航選手（スピードスケート男子500メートル）



渡部颯斗選手（ノルディックスキー複合個人ラージヒル）



（左から）渡部颯斗、渡部善斗、永井秀昭、山本涼太選手（ノルディックスキー複合団体）



宇野昌磨選手（フィギュアスケート男子）



坂本花織選手（フィギュアスケート女子）



日本チーム（フィギュアスケート団体）

秋田でスキー国体が2年ぶり開催

第77回国民体育大会の冬季大会スキー競技会が、2月17日から20日まで秋田県鹿角市の花輪スキー場で開催された。昨年の大会は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、今年は大会前のPCR検査や大会中の抗原検査など感染防止対策を徹底した上で、無観客で2年ぶりに開かれた。

大会には約1600人の役員・選手が参加し、18日から熱戦を繰り広げた。クロスカントリでは開催地の秋田勢が活躍。少年女子5キロで山田智子選手（秋田北鷹高）が優勝し、山田選手を含む4人で臨んだ女子リレー（5キロ×4）でも圧勝した。山田選手は「前半からがながん飛ばした。みんなの力で勝ててうれしい」と喜びを口にした。成年男子A10キロでも、会場近くに実家のある田中聖土選手が競り勝った。



クロスカントリー少年女子5キロで優勝した山田選手



複合の少年男子で優勝した山崎選手、前半のジャンプ

星選手が初マラソン最高タイムで優勝 大阪・びわ湖毎日総合大会

大阪マラソンと昨年限りで終了したびわ湖毎日マラソンが統合されて生まれ変わった大会が2月27日に大阪市で行われ、23歳の星選手がマラソン初挑戦での日本最高となる2時間7分31秒で優勝した。

大阪府庁前スタート、大阪城公園をゴールとした42・195キロのコース。星選手は、2位となった山下一貴選手、3位となった浦野雄平選手と3人でつづったトップグループから38キロ付近で飛び出し、そのまま逃げ切ってゴールした。「この（いい）記録で優勝とは考えてい

なかったで驚きです。チャンスがあれば五輪も世界選手権にも挑みたい」と素直に喜んだ。

星選手は今年夏の世界選手権（米オレゴン州）代表候補となり、2024年パリ五輪の代表選考会となる来年初のマラソングランドチャリオンシップ（MGC）の出場権も獲得した。

女子は堀江美里選手が2時間32分10秒で優勝したが、MGC出場権の基準タイム（2時間28分以内）には届かなかった。



38キロ付近で先頭に出る星選手。後方右は浦野選手、同左は山下選手（代表撮影）